

### 視力スクリーニングってなんですか？

主として弱視を早期発見するための検査です。弱視の原因となる屈折異常（遠視、乱視、近視）、眼位異常（斜視）を発見します。医療機器の進歩により短時間で比較的正確に上記疾患を判別できる機器（スポットビジョンスクリーナー）が登場したので2016年4月から当院にて採用、開始しています。

### 弱視とは何ですか？

出生直後の新生児の視力は0.02程度で、その後鮮明な像を両目で“見る”ことで視機能が発達していきます。何らかの目に関する異常で鮮明な像を視ることができなくなると、視力が発達しません。その状態を弱視と呼びます。弱視は眼鏡等で矯正しても十分な視力が得られません。しかし弱視となる原因を適切な時期に治療すると視力が改善します。治療により視力の改善が得られることが弱視の定義として重要です。

### 弱視に対してはどんな治療をするのですか？

弱視の原因となる屈折異常、眼位異常等の治療を眼科医がおこないます。原因に対して眼鏡の処方であったり、片眼遮蔽、眼位異常に対する手術などがおこなわれます。

### 弱視の治療の適切な時期とはいつですか？

視力が発達する時期（視覚の感受性期間）は3～5歳がピークです。その時期を過ぎると感受性は低下していきます。感受性の高い時期に発見治療することが極めて重要です。3歳以前に治療を開始ができると理想で、できるだけ5歳以前の治療が望まれます。5歳を過ぎると治療成績は低下し、8歳を超えるとより治療成績は低下してしまいます。そのため早期発見が望まれます。

### 視力スクリーニングの必要性って？

これまでは乳幼児健診において小児科医が視診で斜視の有無をチェックしたり、3歳児健診で視力チェックをおこなったりします。しかし程度の軽い斜視は視診では判別が困難な場合がありますが弱視の原因となることがあります。また3歳児健診の視力チェックでは検査になれていない保護者がおこなうため、弱視の発見を逃してしまうケースがめずらしくありません（保護者はまさか自分の子が“見えていない”と思っていないため、うまく対象の絵をさせなくても「うまく理解できていないからだろう」と思ってしまいチェックを終了してしまいがちです）。しかし乳幼児全員を眼科医が診察することは物理的に不可能です。そのため、簡単に弱視をスクリーニングできる方法が待ち望まれていました。

### 視力スクリーニングで異常があった場合は？

視力スクリーニングで異常があった場合、眼科医に紹介し、診察を受けて頂きます。その結果、治療が必要になる場合もあれば、経過観察となる場合、異常なしと判定される場合があります。

### 視力スクリーニングで異常がなければ大丈夫ですか？

簡易な検査でのスクリーニングなので、対象の眼疾患の約 85%程度発見できるとされています。視力スクリーニングで発見できない程度の異常は軽症例の可能性が高いです。のちに、新たに眼疾患が発生する可能性もあります。3歳児健診での視力チェックおよび園や学校での視力チェックもこれまで通りうけてください。

平成 28 年 4 月 8 日 さかたこどもクリニック